

辞書ではよくわからない英語の語句と用法

—その1:「enabler とはどんな人?」—

藤 本 規 夫

英語の書物, 新聞, 雑誌等に頻繁にでてくる表現や単語でも英和辞書で説明(定義)されていない例や, 説明(定義)が一義的であるために日常的に使われる意味が理解できないという例は少なくない。英米人にとってはごくわかり切った表現や単語でも, 英語を母国語としない者にとっては難解であることがしばしばある。また, 時代の移り変わりとともに新しい意味が付加されても, 英和辞書で採用されていない例もある。

この小論では, そういった英語の語句や表現を実際の用例をもとに解説し, 学習者の参考に供するものである。用例がある程度揃ったものから順次取り上げていくことにする。

まず最初に取り上げるのは, enabler と enabling という単語である。enable は able という形容詞の動詞形であるから「～を可能にする」というのが一般的な意味であり, enabler には特に説明(定義)がなくても, enable からの類推で「～を可能にする人・物など」であることがわかる。インターネットで enabler や enabling を検索すると, コンピューターのソフトウェア関連の企業名やソフト名(Output Enablers; Public Key Enabler software; Chinese enabler; Enabling Technologies Inc. など), あるいは企業コンサルタントの社名(World Class Manufacturing Enablers; Technology Enablers, Inc. など)として使われている例がある。また, 岡本茂監修『最新パソコン用語辞典 2001-'02年版』(技術評論社, 2001, P. 287)によると, enable の定義は「一般的には, ある動作や機能を可能にすること。ROM などにはイネーブル端子があり, これに許可信号を与えてデータを出力する。許可信号をイネーブル信号といい, ソフトウェア的な意味でも用いる」となっている。このように英和辞書^{注1)}による一般的な意味でも, コンピューターの専門分野で使われる場合においても「～を可能にする(人・物など)」は「いい(好ましい)結果をもたらす(人・物)」という肯定的な含意しか認められない。しかし, 実際の用例をみると, 特に enabler や enabling が単独で使われる場合には, 「よくない(好ましくない)ことが継続することを可能にする」という否定的な意味で使われることが多いように思われる。そうした使い方は日本でもアルコール, 薬物あるいはパチンコなどの依存症に関連する臨床専門用語としての「イネイブラー」(または「イネーブラー」)「イネイブリング」(または「イネーブリング」)というカタカナ語にみられる。これらのカタカナ語に対応する訳語としては「支え手(enabler)」(インス・キム・バーグ, スコット・D・ミラー『飲酒問題とその解決』斎藤学監訳, 金剛出版, 1998, P. 36)としているものや, 「enabling(世話焼き行動)」(福井進・小沼杏坪編『薬物依存症ハンドブック』金剛出版, 1996, P. 136)の例があるが, 定訳の地位は得ていないようである。

これらの言葉について信田さよ子は次のように説明している。「依存症は本人と, 周囲の困ってやめさせようとしているもう一人の人との関係によって成り立っている。本人だけの問題であれば(周囲の誰も困らなければ), 基本的には本人の自由に帰せられる。本人が困り嗜癖をやめようと思えば, それだけで回復半ばであるとまでいわれる。で

は何故本人がみずから嗜癖をやめようとししないのか。それは、周囲に本人を支えて世話をしつづける『もう一人の人』の存在があるからで、それをイネーブラー (enabler) と呼ぶ。それはたいてい本人にとって一番大切は人で、配偶者か親がほとんどだ(『依存症』文芸春秋, 2000, P. 53)。そして、そういうイネーブラーとして依存者に対して「もう一人の人」が取る行動はイネープリング (enabling) と表現される。

このような意味での使い方は、もともとはアルコール依存症者と依存症者の周りの人々との関係についてのものであったが、今ではいろいろな場面で使われるようになっており、英語での用例では文脈によって enabling は「必要以上に甘やかすこと」「極端に庇うこと」「ちやほやすること」「過保護にすること」「腫れ物に触るように扱うこと」、enabler は「(そういう行動を取る) 人」と訳すことができ、いずれも否定的な意味を持っている。

この問題を真正面から取り扱った本がある。Angelyn Miller 著で題名もそのままの *The Enabler. When Helping Harms the Ones You Love* (Random House, Inc., 1990) で、夏生悠の邦訳では『何がまちがっていたの: 「愛」で支配するひと・イネイブラー』(ヘルスワーク協会, 1999) という題名になっている。この中から一部分を引用すると、「イネイブラーは、ほかの人の責任を肩代わりし、本人から成長と学習のチャンスを奪ってしまいます。イネイブラーは、不毛な行動の結果から本人を護ろうとして、かえって彼らの弱さを助長させてしまいます」(P. 22) 「イネイプリングの関係は、夫婦、恋人、友人同士、親子、師弟、雇用関係、政府対国民など人間関係が多様であるように、限りなく多彩です」「イネイブラーはほんとうは自分の足で立てるはずの人に手を貸しているのです」(P. 23) 「イネイブラーは解決すべき問題を必要とし、依存者は問題を抱えることを必要としているわけです」(P. 44) 「依存者は、依存させてくれる人がいなければ依存者であり続けることはできません」(P. 49)

この本の中で具体的な例として挙げられているのは、アルコール依存症の夫を持つ妻やいろいろな形で子供を甘やかしたり、子供の言いなりになったりする親の姿である。

このように日本では依存症の臨床専門用語としてのみ使われている言葉が、アメリカではもっと広い範囲で使われているのでその具体的な使用例を挙げる。

まず、有名な人生相談欄の Ann Landers への投書と回答から拾ってみたい。

1. [投書の要旨] 私のボーイフレンドは10年前からヘロイン中毒である。彼とは1年半つきあっており、とても愛しているが、ヘロインを止めそうにない。施設に入ったりしていろいろなことを試してみたと言うが、嘘をつくこともある。どうしたらいいかアドバイスが欲しい。

[Annの回答の要旨] あなたが彼の嗜癖やうそを受け入れることによって、あなたがイネイブラーになってしまっている (Your acceptance of his addiction and lies has made you something of an enabler.)。そんな関係を早く止めて、あなたがどこかの自助グループに参加することをすすめる。(Asahi Evening News, 94/7/17)

2. [投書の要旨] 一年前から同棲している40歳のボーイフレンドは定職がなく、ジムに行ったり友達と遊んだりしてほとんど毎日過ごしている。仕事を探しに出ることもあるが、あまりやる気がありそうにはない。しかし、家事は手伝ってくれるし、とても魅力的な男である。私が働いているのでお金に困ることはないが、彼が私に経済的に寄生しているのが、なんとなくすっきりしない。彼と別れるべきか。

[Annの回答の要旨] あなたは自分がイネイブラーであることに気付いていないのではありませんか (Has it ever occurred to you that you are an “enabler”?). あなたが彼を甘やか

- し続けているので、彼としては仕事をしてお金を稼ぐ理由もなくなっている。どんなことでもいいから仕事を探すように仕向けるべきだ。(Asahi Evening News, 94/9/15)
3. [投書の要旨] アルコール依存症の夫は、不潔で、朝起きられずに仕事にも遅れるし、話しの途中で居眠りしたり、自分の行き先について嘘をついたりするので、子どもたちも恐れ始めている。しかし、彼のことを愛しているのでどうしたらいいかわからない。
- [Ann の回答の要旨] あなたが夫のそのような行動を放って置くなら、あなたはイネイブラーだ (If you allow John to continue this pattern of behavior with no consequences, you are an *enabler*). 泣いたり、哀願したり脅かしたりしても効果はないので、Al-Anon^{注2)} に出席することをすすめる。(Asahi Evening News, 95/1/13)

次の例は *Asahi Evening News* (98/10/2) に転載された *New York Times* の記事であるが、そのタイトルは、'Enabling' Is Now a Political Disease (「イネイブリングは今や政治的は病気である」) となっており、クリントン大統領のセックススキャンダルに関連し、家族や側近ばかりでなくアメリカ全体がそれを許してきたことが問題である、との観点から *enabler* や *enabling* という言葉を使った批判的な意見を集めている。具体的に *enabler* や *enabling* が使われている例を一部列記してみる。

"A Nation of Clinton Enablers?" (*The New York Post* 紙の記事のタイトル。「アメリカは国全体でクリントンを甘やかしているのではないのか」)

"We have all been *enablers* for Bill Clinton." (*Time* 誌の記事。「われわれはみんなビル・クリントンを庇ってきた」)

"... So I guess, in the spirit of our times, if you are applying clinical label to all unwanted behavior, you could apply the label '*enabler*' to people who continue to support Bill Clinton." (臨床心理学者 Stanton Peele の言。「望ましくない行動ならどんなものにも臨床専門用語でラベルを貼りがる今のような時代風潮の中では、ビル・クリントンを支持する人たちには『イネイブラー』というラベルが適当であろう」)

注

- 1) 参考にした英和辞書は比較的新しくて採用語彙数が多い次の3冊を中心とした。それぞれの *enable*, *enabling* および *enabler* の定義は以下の通り (英語の用例略) :
『ランダムハウス英和大辞典 第2版』(小学館, 1993)
enable v.t. 1 〈主に物・事が〉〈人に〉(…)できるようにする; (…する)力 [手段, 能力, 権限, 資格] を与える。2 〈行為などを〉可能 [容易] にする。3 《コンピューター》…を作動させる。～・**ment, enabler** *n.*
『リーダーズ・プラス』(研究社, 1994)
enable vt. 《電算》〈機器を〉(待機状態を解いて) 使用可能にする; 《電算》〈割込みを〉可能にする。
『リーダーズ英和辞典 第2版』(研究社, 1999)
enable vt. 〈人など〉に手段 [機会, 力, 権能, 認可] を与える, …できるようにする; 实际的 [効果的] にする, 可能 [容易] にする; 《電算》(待機状態を解いて) 〈機器を〉使用可能にする。
enablement, enabler *n.*
enabling *a.* 《法》権能を付与する。
- 2) Al-Anon: Alcoholics Anonymous の略。アルコール依存者の家族や友人の集まりで、創立は1935年。本部はニューヨーク。William Safire のよると *enabling* という語をアルコール依存者との関係で最初に使ったのは Al-Anon 発行の文書で、1960年の初め。また、「enableという言葉は *empower* という言葉

と対比することができる。何かいいことを可能にするときは *empower* する、と言い、何か悪いことを可能にするときは *enable* するという言い方ができる」(The word *enable* can be contrasted with the word *empower*. You *empower* a person to do something good, and you *enable* someone to do something bad.) という意見も紹介している。(On Language, William Safire, *New York Times*, 98/6/21)

参 考 文 献

- アンジェリン・ミラー『何がまちがっていたの：「愛」で支配するひと・イネイブラー』夏生悠訳，ヘルスワーク協会，1999
インス・キム・バーグ，スコット・D・ミラー『飲酒問題とその解決』斎藤学監訳，金剛出版，1990
岡本茂監修『最新パソコン用語辞典 2001-'02年版』技術評論社，2001
斎藤 学『精神科治療学』星和書店，1995
信田さよ子『依存症』文芸春秋，2000
福井 進・小沼杏坪編『薬物依存症ハンドブック』金剛出版，1996